

平成25年度事業計画

自 平成25年4月1日

至 平成26年3月31日

1 はじめに

平成22年2月14日に公益認定を頂き、公益財団法人として2年目の事業年度を迎えました。

「石と芸術のまち金谷」のテーマのもと地域の芸術文化を振興し、地域文化のシンボルとして、創造性を活かし、より柔軟な発想のもとに、美術館の施設の機能と地域の自然環境、地域文化、地域の人材を最大限に生かしながら効率的、効果的な運営を行い、平成25年度事業を着実に実行していく。

2 基本方針

当法人の平成24年度の収支計算書（見込み）から見ると、事業活動収支差額は1,700万円強のマイナスが見込まれる。限られた予算の中で入館者数の増加につながる特別展等を企画し、展観事業を推進して行く。

このような現状を踏まえ、金谷美術館が未来永劫、地域のまちづくりの核として存続するためには、第一に実現することは、年間美術館の運営管理費2,700万円強をまかなうだけの営業収入、募金収入を確保することである。

金谷美術館は平成22年3月15日に開館し、4年目を迎え、地域文化を創る担い手として公益財団法人金谷美術館成りを実現し、今後の活動に弾みをつけた。展観事業と合わせ募金活動も積極的に推進し、芸術文化を守り継承していき、地域の活性化を図る取り組みを多くの皆様の志により支える仕組みづくりを行っていく。

金谷美術館が、今後、健全な財務状況のもとで事業運営を実現するため、次のような事業展開を図っていく。

- ①美術品寄贈者やその関係ネットワークまた地域内各団体・施設と連携した地域一体としての広報・営業活動
- ②美術愛好家に対する効果的なPR及び企画の開催
- ③著名作家の企画展示
- ④国や各財団の助成事業を活用した企画展示
- ⑤募金、寄付金、会員を募る活動

等である。持てる資源を最大に活用して次年度は黒字転換に持って行ける経営を目指す。

3 平成25年度の金谷美術館の主な事業計画

平成25年度の展観事業として、次の特別展を実施する。多様な美術展を通じ、美術工芸品を観賞する機会を提供し、地域での優れた美術文化の伝搬を行い、地域の街づくり、地域文化と地域起業家を育て、地域産業を振興し、元気ある街づくりの実現に向けて今年度の特別企画展を計画する。

(1) 美術工芸品の展観普及事業

事業目的等		展示予定期間	事業概要
趣旨・目的	展観事業の名称等		
<p>(1) 地域の美術館として良質な作品を展示することにより地域住民に芸術的な素養と豊かな感性を醸成し、地域社会等に寄与することを目的とした展観事業である。</p> <p>(2) 美術館の中だけでなく、地域の各施設と連携し「石と芸術のまち金谷」のテーマに沿った展示、体験活動等を通し、地域の環境価値を高めることにより来訪動機につなげ活性化に寄与する。</p> <p>(2) 将来性のある地域の小・中学生の情操教育に寄与するとともに健全な芸術的感性を養育することを目的とした展観事業である。</p>	<p>1 展観の名称 「金谷クロッシング」 入館予定者数 (2,000人)</p>	2013・4・13 ～ 6・30	<p>金谷美術館で2度久住三郎展を開催しており、その久住夫人と繋がりがあった彫刻家の故清水一直氏夫人より、彫刻の寄贈をいただけることになったため、記念として彫刻展を開催。作品がとても重量で大きく、館内設置は不可との判断から清水一直氏にゆかりのある彫刻家12人と、久住三郎氏の日本画の展覧会を同時開催する。 (清水一直氏の寄贈作品は入口外の庭に2月6日、3月27日に設置)</p>
	<p>2 展観の名称 「房総の海展」 入館予定者数 (1,800人)</p>	2013・7・6 ～ 9・23	<p>主な展示作品等</p> <p>○前嶋實(まえじま みのる 昭和11(1936)年～、東京都出身、東金市在住)</p> <p>○溝口七生(みぞぐち かずお 昭和11(1936)年～、東京都出身、安房郡鋸南町在住)</p> <p>○斎藤捷夫(さいとう はやお 昭和14(1939)年～、京都府出身、佐倉市在住)</p> <p>○高橋規矩治郎(たかはし きくじろう 昭和5(1930)年～、八千代市在住)</p> <p>房総で活躍した4名の洋画家に焦点をあてた企画展。 美術委員の大久保守氏からの提案された「海を描く」と</p>

			内容で、海沿いの金谷美術館に相応しい企画。 アマチュアを対象に金谷を舞台にした写生大会等も実施する。日本財団へ助成金4,800千円決定済み
3 展観の名称 公募展 山と海を描く・自由課題（自然をテーマ） 入館予定者数 (1,000人)	2013・ 9・28 ～ 10・14		出展料は1万円、作品500点を目標に集め、審査員を募り、公募展を開催。千葉県からの出展者をメインに作品を集める。 日展の理事、作家、評論家、地元教育委員長、地元企業に審査員になってもらい、審査、表彰式を開催する。審査日：9月9, 10日 審査員：佐藤哲、三澤忠、菊池元男、樋口洋、田辺知治、桑原富一、柳瀬俊泰、川口順宜
4 展観の名称 「収蔵作品展」 入館予定者数 (2,000人)	2013・ 10・19 ～ 2014・ 2・2		作品の調査を美術委員のスタッフを中心に進め、展示にふさわしいものを厳選し、それにあつた収蔵企画展を決める。
5 展観の名称 「山本丘人展」 入館予定者数 (2,200人)	2014. 2.8 ～ 4.6		文化勲章受章者である山本丘人に焦点をあてた企画。作品は東京国立近代美術館や山種美術館にも収蔵されるなど、有名な作家である。現在は山本丘人記念館と作品無償貸与の交渉中。

4 関連事業

「美術工芸の教育及び普及のための事業」及び「地域社会の振興（街づくり）の調査研究及び文化活動の事業」等を企画、実施する予定である。具体的な事業内容については、作業を進めて行くことになっている。

金谷美術館や金谷の町おこしのテーマであった「石と芸術のまち金谷」。その実現に向け NPO KANAYA や地元各団体と等と連携していく（KANAYA BASE、合掌館など）。更に地域では平成 25 年度、鋸山の整備に対する JR 東日本財団の助成事業を活用し、千葉県、富津市にも助成を要望し地域の資産鋸山の整備を進め、自然の博物館（ナチュラルミュージアム）鋸山と金谷のまちを結んだ面での活動も進めていきたい。

5 その他の主な事業計画

次に掲げる課題等は金谷美術館が今後、展観事業を円滑に推進して行くためには、重要な事業である。これらの事業は、長期的な観点から、計画をたて、多くの皆様の知恵と支援と協力を得ながら推進して行く必要がある。専門家、関係者の適切な助言と指導を頂きながら、真摯に取り組んで行きたい。

- (1) 入館者の倍増計画と実現
- (2) 寄付金事業の推進
- (3) 会員獲得のための事業の推進
- (4) 公益財団法人成りを実現した金谷美術館の活用と振興
- (5) 金谷美術館の広告宣伝活動
 - ① 関係行政機関及び団体・企業に対するご案内
 - ② 富津市民にたいする呼びかけ
 - ③ 千葉県民や対岸の横浜・横須賀に対する PR 活動
- (6) 財務基盤の確立のための支援と協力

※募金目標は今年度中に必達し税額控除制度が適用される対象法人として申請を行い募金の獲得に弾みをつける。

(3月25日現在、180名。要件：2年間で3,000円以上の募金が200名以上)